



「LGBTQ」から考察する家族・看護の研究

人文科学系・人文社会学領域

三部 倫子

准教授 SAMBE Michiko

博士(社会科学)(お茶の水女子大学)

■研究キーワード LGBT/家族/看護/医療/質的調査

■主な所属学会 家族問題研究学会,日本家族社会学会,関東社会学会,日本社会学会,日本看護科学学会,日本保健医療社会学会

■研究者総覧 <https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.3a8cd95aa4fe19b8520e17560c007669.html>



研究者総覧

研究概要

社会学を足場に、「LGBTQ」や「性の多様性」から見えてくる社会的な課題の可視化に興味を持って研究に取りくんできました。

家族という身近な存在のなかでなきものとされたり、抑圧されてきた現象として、親と子の間で生じるカミングアウトの経験をとあげたのが研究者としてのスタートでした。その後、異性愛や性別二元論を中心とする家族のなかで生きてきた人たちが、それとは異なりうる親密な関係性を、どのように創っているのかを問うために、同性カップルの子育てに関する調査研究も行いました。

最近では、こうした家族を通して把握されてきた課題が、看護や医療の領域に移った際にどのような形で「問題」として生じるのかを把握した上で、看護・医療専門職とともに医療格差や差別を減らす研修の考案に務めています。

カミングアウトされた親の葛藤やユーモアによる乗り越えについて質的調査を通して考察



入門
家族社会学
An Introduction to Sociology of Family
永田夏菜・松永洋人 著

ひと味違う視点から家族について考える。 著者

シスとトランスの女性カップルの子育てから「男女」枠組み規範を問う

アピールポイント

1. インタビュー調査や人の集まる場への参与観察という調査方法を専門としてきました。ジェンダー・セクシュアリティといった近代社会で、私たち人間にとって大切にプライベートなものとなった現象へのアプローチとして、様々な工夫を行ってきました。時には失敗したり、叱られて、反省したりしながら……。こうした調査の経験は、文化人類学や調査倫理の研究者とのつながりにもなっていますし、私の教育においても得意とするところです。

2. 社会学という学問領域への貢献だけでなく、性的指向や性自認に起因した差別を少しでも減らすことも研究の社会的意義だと考えています。科学研究費補助金で実施した病院に勤務する看護部長を対象としたアンケート調査では、医療現場における患者の家族等が異性愛的な関係性に限定されていること、他方で現場ではよりよい医療・看護の提供のために研修が求められていることがわかりました。このアンケートをもとにした報告書は様々な報道や教科書で使用されており、調査の重要性を再確認しました(researchmapの「資料公開」にてダウンロード可)。

3. 今後は看護・医療を提供する側への研修案を、現場の声も聞きながら協働して作成し、医療保健社会学的なアプローチにとりくみます。